大　阪　市　長　　　西　尾　正　也　殿

　　　　　　　　　　民　　生　　局

　　　　　　　　　　建　　設　　局

　　　　　　　　　第２４回越冬闘争実行委員会

　大阪市にあっては、釜ケ崎の長引く緊急事態を正面から見据え、真剣にその解決に取り組もうとの姿勢はうかがえる。年末からの「越年対策」の人員、大阪府に対する就労紹介窓口開設要求などがそれである。

　しかしながら、「越年対策」は、いわば一時的なものであるし、大阪府に対する要望も「他人」まかせな側面を持つ。

　大阪府よりもましな姿勢として評価できても、実際の釜ケ崎の困難は、やはり残されているのである。

　大阪市の仕事始めの日にあたり、改めて、「臨時宿泊所」閉所時に高齢者の十分な対策をおこなうよう要請する。すなわち、高齢者を仕事のあてもなく、明日の食・住に不安なまま路上にほうり出すことがないように、要請する。

　また、就労対策、釜ケ崎日雇労働者への雇用創出について、大阪府への説得が効を奏することを期待しているが、しかし、それにこだわることなく、釜ケ崎について、労働抜きにしては福祉も力をはっきしえないという大阪市の認識を、大阪市独自での施策として具体化する決断を要請するものである。

　高齢労働者の問題は、結局、福祉問題であり、失業－労働問題でもある。その両側面を持つことから、行政のナワ張り意識が禍して対策が立ち遅れることがあってはならないと考える。

1994年1月4日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以　　上